## 属人区長のメッセー ジ(2020年5月15 日)

外出制限が緩和に向かう中、 フェルナンド・オカリス神神 は、使徒職のイニシャティ は、使徒職の生活を通し を継続し、自らの生活を魅力 てキリストの弟子となる を伝えていくよう励ましま す。

2020/05/15

愛する皆さんへ。イエスが私の子どもたちを守ってくださいますように!

多くの国で外出が厳しく規制されて いたこの数週間、人間の持つ限界と 偉大さが人々の目に明らかになりの した。ウイルスがいかに私何百万かに を不安定にし、世界中のしたの 生活を不安定にした不安定にした。 もの当たりにしてきました。 もの当たり前だと思って見逃しること を学んだのではないでしょうか。

亡くなられた方々のために、また、 多くの場合、最期の瞬間にそばにい ることができなかった家族の人々の ために、特に祈り続けましょう。私 たちもまた、この身をもって同じ宿 みを経験してきました。多くのオプ ス・デイの信者も天の家に旅立った からです。彼らのために祈りましょ う。 その一方で、病院でほとんど途切れることなくシフトを組んだり、留まで他人の世話をしたり、家の危険事にしたがらも社会に欠かせなの人ながらも社会に欠かないないないないないない。彼らの時にしなが最後の時にしなが最後の時にしない。彼らの時にしない。彼らの時にはあたがたの中で、仕える者である」(ルカ22,27参照)を思い出させていれます。

この意味で、多くの人々の自発的な 働きによって、オプス・デイが提供 する形成の手段は、テクノロジーに よって維持され、場合によっては強 化されてきました。キリストのメッ セージを広め続けるために自分の創 造力と時間を注いでくれた娘たちと 息子たちの使徒的な熱意を神に感謝 しています。このような活動に対し て、その時々の状況に応じた方法で これらの活動に参加することができ た多くの方々から、大きな関心と感 謝の声が寄せられています。物理的

に離れていたり、病気などの障害がある場合の形成を継続するため、あるいは、これからも様々な活動を進めて行く上で、デジタル・メディアが今後も大きな助けになることを、新たな展望をもって実感させられた今日この頃です。

当然のことながら、この間、私たちきは多くのと直接会うことを高いことを感じてきまして、もいるでしたを感じとを控って、もいとをなったながでないとがであれていたがでない。数理の手では、数理の手では、数理の手ではないないがであります。

数週間前、イエスと弟子たちとの関係に目を向けた教皇様は、教会は「具体的な親しさ」(2020年4月17

日の説教参照)によって形成されて いることを思い出させてくださした。その親しさは、秘跡を通し、 主ののそば近ることをまた、 とに生きることに、といる とに生きるました。 人となれることを指摘さしたが、 変にも伝えの人たちが誠と でからない、真の友になること でなければなりません」 牧書簡』2019年11月1日)。

だからこそ、ヨハネとアンデレがイ エスに「先生、どこに泊まっておら れるのですか

(ヨハネ1,38)と尋ねたときの二人のことを私たちはよく理解できるのです。彼らは一緒にいたかったのです。他の人が語ることによって主を知るだけではなく、キリストと物理的に一緒にいることを必要としていたのです。イエスの近くにいることによって、イエスとの友情(親し

さ)は新たな深みを持ち、彼らが自 分の人生を捧げて使徒となることに つながっていきました。聖ホセマリ アの次の言葉が思い出されます。

「イエスは、細やかさをご存じであり、励ます言葉をご存じで、友情に対しては友情で応えることをご存じなのだ。ベタニの家における、ラザロ、マルタ、マリアとの対話は、どれほど素晴らしいものだったことだろう

(手紙、1965年10月24日、n.10)。

多くの場所で、新しくも概ね正常な 状態に少しずつ戻りつつあります が、まだまだ長い道のりが残ってけます。この期間、家庭や職業、使徒 職において残された深刻な困難を、 前向きに耐え忍ぶ力を主に願いまま しょう。また、祈りによって、また 可能であれば支援の手を差し伸なお ことによって、多くの国で今もなお 過酷な状況にある無数の人々に寄り 添うことを忘れてはなりません。

5月であるこの月、世界の状況を前にして、「Mater Misericordiæ(慈しみの御母)」である聖マリアの母としての仲介に特別に熱心に頼ることにしましょう。

心より愛情を込めて祝福を送ります あなたがたのパドレ

フェルナンド

ローマ、2020年5月15日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchoun-messeji-2020-5/(2025/12/16)